

厚生科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
研究報告書

地域別人口性比と結婚・出生、人口移動との関連研究

主任研究者 山口 喜一 東京家政学院大学教授

厚生科学研究費補助金（社会保障・人口問題政策調査研究事業）
研究報告書

地域別人口性比と結婚・出生、人口移動との関連研究

主任研究者 山口 喜一 東京家政学院大学教授

研究要旨 人口性比は、出生性比、死亡性比、移動性比によって決まるが、地域別人口性比は移動性比の地域差の影響を最も受けることから、地域別人口性比の動向、そして人口性比と結婚、出生及び人口移動との関係がどの程度あるかを分析したものである。その結果、以下のことが明らかになった。人口性比の都道府県間格差を年齢別にみた場合、市部・郡部とも1990年までは、20～24歳が最大であり、1995年では25～29歳が最大となる。これは、20歳代前半の人口移動が都道府県別人口性比の格差を生じさせたためである。そして人口性比が高い地域ほど若い男子の有配偶率が低い。それは特に市部において顕著である。

A. 研究目的

人口性比は、出生性比、死亡性比、移動性比によって決まる。地域別に人口性比の格差をみる場合、出生性比、死亡性比の地域差の影響も受けるが、それ以上に移動性比の地域差の影響を受けることは明らかである。何故なら、人口の移動性は、男子の方が高く、また若年人口の方が高い。その結果、地域別にみると、人口性比に大きな差異が生じることになる。特に結婚適齢期人口の性比に差がみられる。このことは、地域の結婚、出生の動向に影響を及ぼすと考えられる。

そこで本研究では、地域別人口性比と結婚、出生及び人口移動との関係がどの程度あるかを明らかにする。著者は、地域別人口動向について、都道府県あるいは市町村別出生力の分析、自然増加の分析と、出生率を中心に地域の人口分析を

行っており、その延長線上の研究である¹⁾。

平成7年の国勢調査の結果が明らかになったことを踏まえて、多くの県あるいは市町村において、地域別人口推計が計画、あるいは実施されているが、その際の出生率及び人口移動率の仮定設定に資することができる。

B. 研究方法

本研究の第1年度は、総人口の人口性比について分析を行った。今年、第2年度は、地域間人口移動は、男子の移動性が高く、農村から都市への移動が中心であることから、市部・郡部別に人口性比の分析を行った。方法は総人口のときと同じである。

まず、人口性比の動向を都道府県別、市部郡部別に分析する。次に、地域別人口性比は出生と死亡、そして人口移動に

よって決まることから、人口移動が人口性比に与える影響、逆に、人口性比が結婚と人口移動に与える影響について分析し、相互の関連を明らかにする。

人口性比としては、総人口の人口性比、そして結婚適齢期でもあり、移動性の高いのは若年齢人口であることから、20～34歳の人口性比を使用する。また人口移動の指標としては、年齢別人口のコーホート変化率、結婚の指標としては、普通婚姻率と有配偶率を使用する。そして、その動向と相互の関係について考察する。観察年次は1960年以降である。

C. 研究結果と考察

1. 市部・郡部別人口性比の動向

(1) 総人口の性比²⁾

地域間人口移動は、男子の移動性が高く、農村から都市への移動が中心である。したがって、市部・郡部別に人口性比を比較すると、全国総人口では、市部人口の性比の方が高くなる（表Ⅰ-1, Ⅰ-2）。小さい年次で2.4ポイント、大きい年次で4.2ポイント、市部人口の人口性比の方が高い。これを都道府県別に比較してみると、必ずしも、全都道府県で市部人口の性比の方が高いわけではなく、大都市を有する府県と東京周辺県のみ、常に市部人口の性比の方が高い。それは、宮城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、山口県、福岡県である。

都道府県ごとに、市部人口の性比をみると、1960年において、100を超えているのは、北海道、東京都、神奈川県、大阪府の4都道府県にすぎない。1965年に

はそれに埼玉県、千葉県が加わり、逆に北海道が100を下回る。1970年には、愛知県が加わり、逆に大阪府が100を下回る。そして、1995年には茨城県が100を上回る。したがって、1960年以降、常に100を超えているのは、東京都と神奈川県のみである。

郡部人口の性比をみると、1960年以降、常に100を超えているのは、東京都のみで、東京都には市部・郡部関係なく、男子の方がより多く流入していることになる。最近年次では、埼玉県の郡部人口の性比も100を超えており、東京都のベットタウンであることから、埼玉県は最近、市部・郡部関係なく、男子の方がより多く流入していることになる。

市部と郡部の都道府県間格差を変化係数によってみると（表Ⅲ-1, 2）、常に市部人口の性比の方が高く、農村から都市へ男子人口がより多く移動している結果が表れている。また、市部・郡部別に都道府県間格差を変化係数によって時系列で観察すると、市部人口の性比は、1960年の3.9%から1995年の4.2%まで大きな変動はみられず、都道府県間格差に大きな変化はないと言える。また郡部人口の性比は、1960年の2.6%から1970年の3.6%まで上昇し、都道府県間格差の拡大がみられたが、その後、1995年の3.8%まで、都道府県間格差に大きな変化はみられない。

人口性比の都道府県間格差は変わらないが、都道府県別の特徴をみるために、人口性比の水準によって、都道府県をⅠ：平均+1.5 σ 以上、Ⅱ：平均+0.5 σ ～平均+1.5 σ 、Ⅲ：平均～平均+0.5 σ 、Ⅳ：平

均～平均 -0.5σ 、V：平均 -0.5σ ～平均 -1.5σ 、VI：平均 -1.5σ 以下に区分し動向をみた。

人口性比がⅢとⅣにある地域を平均的な地域、ⅠとⅡにある地域を高い地域、VとⅥにある地域を低い地域とした場合、まず市部人口の性比が1960年以降、常に高い地域に属しているのは（表Ⅱ-1）、東京都とその周辺県である茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、そして、静岡県、愛知県、大阪府の8都府県である。逆に常に低い地域に属しているのは、四国の徳島県、愛媛県、高知県、そして、九州の佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県の7県である。大きく水準を変化させているのは福岡県で、1960年は、高い地域であったが、1965年～90年までは平均的な地域となり、1995年には低い地域へと変化している。また、郡部の人口性比が1960年以降、常に高い地域に属しているのは（表Ⅱ-2）、東京都、埼玉県、神奈川県の3都県のみで、この3都県は市部においても郡部においても常に人口性比が高い地域である。逆に常に低い地域に属しているのは、鳥取県、香川県、佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県の6県である。九州の佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県は市部においても郡部においても常に人口性比が低い地域である。大きく水準を変化させているのは島根県、長崎県、宮崎県で、島根県は、1960年は、高い地域であったが、1995年は低い地域となっている。また、長崎県は1960年は、高い地域であったが、1965年～80年までは、平均的な地域、1990年以降、低い地域となっている。宮崎県は、1960年は高い地

域であったが、1965年には、平均的な地域、1970年以降、低い地域となっている。

なお、市部人口の性比が最も高いのは、1960年は東京都であり、1965年以降は神奈川県が最も高い。逆に最も低いのは1960～70年は大分県であり、1975、80年は鹿児島県、1985年以降は長崎県となる。また、郡部人口の性比が最も高いのは、1960年は北海道であり、1965年以降は東京都が最も高い。逆に最も低いのは1960年は大阪府であり、1965～1990年は鹿児島県、1995年は山口県である。

(2) 若年齢層の人口性比

人口性比の変動には死亡性比も影響する。わが国人口の年齢構造は急速に高齢化しており、これが全体の人口性比に影響している。わが国の人口性比は、出生性比が100を超えているため、若年齢では100以上であるが、どの年齢の死亡率も女子の方が男子よりも低く、ある年齢以上になると、逆に、人口性比は100を下回る。全国人口でみた場合、45歳頃逆転する。結婚あるいは出生に関係が深い年齢は、若年齢層であり、また人口移動の中心も若年齢層であることから、20～34歳の若年齢層の人口性比について考察することにする。

20～34歳人口性比を都道府県別、市部・郡部別に比較すると（表Ⅰ-3、4）、全国では、市部人口の性比の方が高くなる。小さい年次で1.0ポイント、大きい年次で9.6ポイント、市部人口の性比の方が高い。これを都道府県別に比較してみると、総人口同様、必ずしも市部人口の人口性比の方が高いわけではなく、神奈川県、愛

知県、大阪府、山口県、福岡県の6府県のみ、常に市部人口の性比の方が高い。

都道府県ごとに、市部人口の性比をみると、人口総数の性比よりも100を超える県が倍以上多くなる。死亡性比の影響をあまり受けない年齢層であるので、当然のことである。

1960年以降、常に100を超えているのは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府の大都市圏ある。

人口総数の性比と比較すると（表Ⅲ-3、4）、最も人口性比の高い県と低い県の差が20~34歳人口性比の方がかなり大きくなる。また変化係数を比較しても、各年次とも20~34歳人口性比の方が人口総数の性比よりも高く、地域間格差が大きくなる。人口移動の中心がこの年齢層であり、しかも男の移動性の方が高い結果が表れている。

郡部人口の性比をみると、1960年以降、常に100を超えているのは、東京都、神奈川県、沖縄県（データの関係で1970年以降）である。東京都と神奈川県は、市部、郡部関係なく、男子の方がより多く流入していることになる。郡部人口の性比が最も高いのは、1960年は奈良県であり、1965年は埼玉県、1970、85、95年は東京都、1975、80年は沖縄県、1990年は神奈川県である。逆に最も低いのは、1960年は山形県、1965年と75年は大分県、1970年は鹿児島県、1980、85年は大阪府、近年の1990、95年は山口県が最も高い。最大、最小の県がめまぐるしく変わる。

人口総数の性比と比較すると、市部同様、最も人口性比の高い県と低い県の差

がかなり大きくなる。また変化係数を比較すると、これも市部同様、各年次とも20~34歳人口性比の方が人口総数の性比よりも高く、地域間格差が大きくなる。人口移動の中心がこの年齢層であり、しかも男の移動性の方が高い結果が表れている。

市部と郡部の都道府県間格差を変化係数によってみると、人口総数同様、常に市部人口の性比の方が大きい。また、20~34歳市部人口の性比の都道府県間格差を変化係数によって、時系列で観察すると、1965年の10.3%から1980年の5.6%まで差があるが、時系列的傾向は見いだすことはできない。また郡部の人口性比は、1960年の5.8%から1995年の5.7%まで大きな変化はみられない。

20~34歳市部人口性比の都道府県別の特徴をみるために、総人口の性比と同じ方法で都道府県を区分し、その動向をみた（表Ⅱ-3）。1960年以降、常に高い地域に属しているのは、東京都とその周辺県である埼玉県、千葉県、神奈川県、そして、愛知県、京都府の6都府県である。逆に常に低い地域に属しているのは、四国の愛媛県、高知県、そして、九州の佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県の7県である。大きく水準を変化させているのは北海道、奈良県、群馬県で、北海道は、1960年は高い地域であったが、1965~90年には平均的な地域となり、1995年には、低い地域へと変化している。奈良県は、1960年、65年には、高い地域であったが、1970年には平均的な地域となり、1975年以降、低い地域へと変化している。また逆に、群馬県は、1965年で

は、低い地域であったが、1965～80年までは平均的な地域となり、1985年以降、高い地域へと変化している。

また、郡部の人口性比が1960年以降、常に高い地域に属しているのは（表Ⅱ-4）、東京都と沖縄県のみで、東京都は市部においても郡部においても常に人口性比が高い地域である。逆に常に低い地域に属しているのは、四国の香川県と愛媛県、九州の佐賀県、熊本県、鹿児島県の5県である。愛媛県、佐賀県、熊本県、鹿児島県は市部においても郡部においても常に人口性比が低い地域である。大きく水準を変化させているのは奈良県、青森県、宮城県で、奈良県は、1960年、65年には、高い地域であったが、1970年には平均的な地域となり、1975年以降、低い地域へと変化している。また逆に、青森県は、1960～75年には、低い地域であったが、1980～90年までは平均的な地域となり、1995年には、高い地域へと変化している。宮城県は、1960年には、低い地域であったが、1965年には平均的な地域となり、1970年には、高い地域へと変化している。

なお、20～34歳市部人口性比の最も高いのは、1960、65年と1975、80年は東京都で、1970年と1985年以降は神奈川県となっている。東京都は最近転出超過となっており、その結果、1985年以降、神奈川県市部が最も20～34歳人口性比の高い県となったと考えられる。逆に最も低いのは、1960～80年までは大分県で、1985、90年は宮城県、1995年は鹿児島県となっている。また郡部人口の性比が最も高いのは、1960年は奈良県、1965年

は埼玉県、1970年は東京都、1975、80年は沖縄県、1985年は再び東京都、1990年は神奈川県、1995年は再び東京都とめまぐるしく変わる。逆に最も低いのは、1960年は山形県、1965年は大分県、1970年は鹿児島県、1975年は再び大分県、1980、85年は大阪府、1990年以降は山口県となる。これもめまぐるしく変わる。

次に、若年齢層の人口性比を年齢5歳階級別に比較すると、14歳までは、出生性比がそのまま表れ、人口性比は100を超えているが、15～19歳になると、100を下回る県が現れる（表Ⅰ-5、6）。人口移動の影響がでてくる。市部では、1960年において、15～19歳人口性比が100を下回る県は32都道府県になる。しかし、15～19歳人口性比が100を下回る県は、1965年以降、年々減少し、1995年においては、兵庫県、徳島県、長崎県、鹿児島県の僅か4県になる。これは高等学校への進学率が影響している。高等学校への進学率は、年々上昇し、1996年は、95.9%（男94.8%、女97.1%）となる。進学は地元の高校への進学が中心となることから（県外の高校への進学割合は約4%）、進学率の上昇に伴って、県外への移動は少なくなる。また、就職者の減少に伴って、県外就職者の割合も低下している。したがって、15～19歳人口性比は高くなる。また郡部の人口性比が100を下回る県は36道府県にもなる。しかし、郡部も15～19歳人口性比が100を下回る県は、年々減少し、1995年においては皆無となる。

1960年市部の人口性比が最も高いのは東京都で、127.6と極めて高い水準を示す

(表Ⅲ-5)。大量に男子が東京都へ流入したことになる。その後は低下するが、東京都の15~19歳人口性比は常に100を超えている。最も高い人口性比を示す県を時系列で見ると、1960年は東京都であり、1965~90年までは神奈川県、1995年は島根県である。逆に最も低いのは、1960年、65年は岡山県、1970年と1975年は岐阜県、1980~90年は徳島県、1995年は長崎県である。これは15~19歳総数でみた場合と同じである。

また郡部人口の性比が最も高いのは(表Ⅲ-6)、1960年は島根県であり、1965年は宮崎県、1970、75年は東京都、1980、85年は長崎県、1990年は山梨県、1995年は石川県である。逆に最も低いのは、1960、65年は大阪府、1970、75年は愛知県、1980年は奈良県、1985、90年は徳島県、1995年は鹿児島県と、めまぐるしく変わる。

15~19歳人口性比の都道府県間格差を市部・郡部別に時系列で観察すると、市部の1960年では、最大の東京都と最小の岡山県とは53.5ポイントも差があり、変化係数も10.3と高く、都道府県間格差は極めて大きかった。しかしその後、最大値が低下、最小値が上昇して、最大と最小の差が15.2まで縮小し、また変化係数も年々低下し3.1となり、都道府県間格差はなくなっている。

郡部の場合も市部同様で、1960年では、最大の島根県と最小の大阪府とは53.1ポイントも差があり、変化係数も9.7と高く、都道府県間格差は極めて大きかった。しかしその後、最大値が低下、最小値が上昇して、最大と最小の差が11.8にまで縮

小し、また変化係数も年々低下し2.2となり、都道府県間格差はなくなっている。なお、市部の方が郡部よりも常に都道府県間格差は大きい。

人口性比の都道府県別の特徴をみるために、総人口の性比と同じ方法で都道府県を区分し、その動向をみた。市部で1960年以降、常に高い地域に属しているのは(表Ⅱ-5)、神奈川県と島根県である。逆に常に低い地域に属しているのは、岐阜県、岡山県、佐賀県である。九州の3県は大きく水準を変化させている。長崎県と宮崎県は、1960年は、高い地域であったが、1965~80年は平均的な地域となり、1985年以降、低い地域へと変化している。また鹿児島県は、1960~70年までは、高い地域であったが、1975年には平均的な地域となり、1980年以降は低い地域へと変化している。

郡部で1960年以降、常に高い地域に属しているのは(表Ⅱ-6)、皆無である。逆に常に低い水準に属しているのは、香川県のみである。大きく水準を変化させているのは、長野県で、1960年は、高い地域であったが、1965~85年は平均的な地域となり、1990年以降は低い地域へと変化している。

20~24歳になると、人口性比が100を下回る県は、1960年の市部では、その数は46都道府県のうち37県と、15~19歳よりも多くなる(表Ⅰ-7)。しかし、人口性比が100を下回る県は、1965年以降、年々減少し、1995年は20県となる。西日本に多くみられる。また1960年の郡部では、人口性比が100を上回る県は、僅かに2都県である。

20～24歳の人口性比の都道府県間格差は、市部は全ての年次で、郡部は1960年を除いて、15～19歳よりも大きくなる(表Ⅲ-11)。就学あるいは就職のため、地方から都市圏への人口移動の結果であるが、郡部の15～19歳の人口性比のみ、都道府県間格差が20～24歳より大きいことは、1960年当時、農村から中学を卒業し、都市へ移動した若者が多かったことを表している。

20～24歳人口性比の都道府県間格差の動向を変化係数でみると(表Ⅲ-7、8)、市部・郡部とも1960年以降、年々低下している。また最大値が低下、最小値が上昇して、最大と最小の差が縮小しており、市部においても郡部においても都道府県間格差はなくなっていると言える。また市部の方が郡部よりも常に都道府県間格差は大きい。これは15～19歳と同様である。

20～24歳人口性比が最も高いのは、1960年の市部では東京都で、133.4と極めて高い人口性比を示す。15～19歳よりも高く、大量に男子が東京都へ流入したことになる。その後は低下するが、常に100を超えている。1965年以降は神奈川県である。逆に最も低いのは、1960～80年までは大分県、1985年と1990年は宮崎県、1995年は徳島県である。また郡部人口の性比が最も高いのは、1960～90年までは東京都であり、1995年は石川県である。逆に最も低いのは、1960年は福島県、1965年は佐賀県、1970年は大分県、1975年は佐賀県、1980年以降は山口県となる。

都道府県別の特徴をみるために、総人口の性比と同じ方法で都道府県を区分し、

その動向をみた。市部で1960年以降、常に高い地域に属しているのは(表Ⅱ-7)、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府と大都市圏内の都府県である。逆に常に低い地域に属しているのは、徳島県、香川県、愛媛県、高知県の四国4県と九州の佐賀県、大分県、鹿児島県である。大きく水準を変化させているのは、兵庫県と奈良県で、兵庫県は、1960～75年までは、高い地域であったが、1980～90年は平均的な地域となり、1995年には、低い地域へと変化している。また、奈良県は、1960年には、高い地域であったが、1965年から85年は平均的な地域となり、1990年以降、低い地域へと変化している。

郡部で1960年以降、常に高い地域に属しているのは(表Ⅱ-8)、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県と首都圏の都県である。逆に常に低い水準に属しているのは、兵庫県と四国の徳島県、愛媛県、香川県である。大きく水準を変化させているのは、三重県と長崎県である。三重県は、1960年は、高い地域であったが、1965年には平均的な地域となり、1970年以降、低い地域へと変化している。また、長崎県は、1960年は、高い地域であったが、1965年～85年までは平均的な地域となり、1990年以降、低い地域へと変化している。

25～29歳になると、1960年市部の人口性比が100を下回る県は、20～24歳と同じ数であるが(表Ⅰ-9)、1995年では、それが29県となり20～24歳よりも多くなる。これもほとんどが西日本の各県である。また1960年郡部で100を下回るのは32都府県であり、1995年では29道府

県である。

25～29歳人口性比の都道府県間格差を
変化係数によって、15～19歳と比較する
と、市部では（表Ⅲ－9）、1960年にお
いては15～19歳よりも小さいが、1965
年以降になると、25～29歳人口性比の方
が15～19歳人口性比よりも格差が大き
くなる。1960年においては、15～19歳人口
の就職による県外移動の影響がまだ大き
かったことがわかる。また、20～24歳と
比較すると、1960～90年までは、25～29
歳人口性比の都道府県間格差の方が20～
24歳人口性比よりも小さいのであるが、
1995年になると、25～29歳の都道府県間
格差の方が20～24歳よりも大きくなる。

郡部では（表Ⅲ－10）、15～19歳と比
較すると、1960、65年においては15～19
歳よりも小さいが、1970年以降になると、
25～29歳人口性比の方が15～19歳人口
性比よりも格差が大きくなる。また、20
～24歳と比較すると、1960～90年までは、
25～29歳人口性比の都道府県間格差の方
が20～24歳人口性比よりも小さいのであ
るが、1995年には同じとなる。

これは20～24歳の都道府県格差は市
部・郡部とも年々縮小しているが、25～29
歳人口性比の都道府県間格差は、市部で
1980年まで低下しているが、その後は上
昇しており、一時縮小した都道府県格差
が拡大している。また郡部は変化が見ら
れず、都道府県間格差は維持されている。
したがって、1995年においては、20～24
歳よりも、都道府県格差の大きな年齢と
なる。なお、市部の方が郡部よりも1975
年を除いて、都道府県間格差は大きい。

25～29歳人口性比が最も高いのは、市

部では、1960～80年は東京都、1985年
以降は神奈川県である。逆に最も低い
のは、1960年は鹿児島県、1965年は佐賀県、
1970、75年は熊本県、1980年は大分県、
1985年以降は鹿児島県で、いずれも九州
の県である。また郡部人口の性比が最も
高いのは、1960年は奈良県、1965年は神
奈川県、1970年は茨城県、1975年は山形
県、1980年は沖縄県、1990年以降は東京
都である。逆に最も低いのは、1960、65
年は鹿児島県、1970年は大分県、1975年
は山口県、1980、85年は大阪府、1990
年は和歌山県、1995年は再び鹿児島県と
なる。西日本の各府県である。

都道府県別の特徴をみるために、総人
口の性比と同じ方法で都道府県を区分し、
その動向をみた。市部で1960年以降、常
に高い地域に属しているのは、東京都、
神奈川県、愛知県、静岡県である（表Ⅱ
－9）。逆に常に低い地域に属しているの
は、四国の愛媛県と高知県、九州の佐賀
県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
である。大きく水準を変化させているの
は、北海道と奈良県で、北海道は、1960
年は、高い地域であったが、1965、70年
は平均的な地域となり、1975年には、低
い地域へと変化している。また、奈良県
は、1960、65年には、高い地域であった
が、1970年～80年はいきなり低い地域と
なり、1985、90年と平均的な地域とな
るが、1995年には再び低い地域へと変化し
ている。

郡部で1960年以降、常に高い地域に属
しているのは、茨城県のみである（表Ⅱ
－10）。逆に常に低い水準に属しているの
は、佐賀県のみである。

30～34歳になると、1960年の人口性比が100を下回る県は、減少する（表Ⅰ-11、12）。30～34歳人口性比の都道府県間格差を変化係数によって、25～29歳までと比較してみると（表Ⅲ-11、12）、総人口、市部・郡部ともいずれの年次も小さくなる。

2. 人口性比と人口移動、結婚及び出生

(1) 年齢別人口性比と年齢別コーホート変化率

年齢別コーホート変化率を一つの人口移動の指標³⁾として、それと年齢別人口性比との相関をみることにする（表Ⅳ-1、2）。まず年齢別人口移動が人口性比に影響を与えるかであるが、市部では、20～24歳人口性比と5年前15～19歳であった男子が20～24歳に移行する時の変化率とは、高いプラスの有意な相関を示す。また20～24歳人口性比と5年前15～19歳であった女子が20～24歳に移行する時の変化率もどの年次も高いプラスの有意な相関を示す。すなわち、コーホート変化率が高い地域の人口性比は高いことになり、それが低い地域の人口性比は低いことになる。20歳代前半の人口移動が人口性比に大きく影響していることになる。

25～29歳人口性比と5年前20～24歳であった男子が25～29歳に移行する時の変化率とは、1965年は有意なプラスの相関が認められるが、1970～85年までは有意なマイナスの相関となり、1990年以降は相関が認められない。また25～29歳人口性比と5年前20～24歳であった女子が25～29歳に移行する時の変化率とは、1965、70年はプラスの有意な相関が認め

られるが、1980年はマイナスの有意な相関がみとめられ、その他の年次は相関が認められない。これは20～24歳人口性比の都道府県間格差が最も大きく、20～24歳人口性比と25～29歳人口性比の相関係数も極めて高いことから、20～24歳で生じた人口性比の差がそのまま25～29歳でも引き継がれている結果であると考えられる。このことから20歳代前半の人口移動が若年齢層の人口性比に大きな影響を与えていることになる。30～34歳も25～29歳と同様の結果である。

郡部では、20～24歳人口性比と5年前15～19歳であった男子が20～24歳に移行する時の変化率とは、高いプラスの有意な相関を示す。しかし、女子では1960年のみ、20～24歳人口性比と5年前15～19歳であった女子が20～24歳に移行する時の変化率と高いプラスの有意な相関を示す。男子は市部・郡部同じであるが、女子は異なった結果となっている。

25～29歳人口性比と30～34歳人口性比は、ともに市部とほぼ同じ結果である。

逆に、年齢別人口性比が年齢別人口移動に影響しているかをみることにする。まず市部であるが、15～19歳人口性比と15～19歳人口が5年後、20～24歳人口に移行する時の変化率とは、男女ともどの年次もプラスの有意な相関を示す。人口性比が高い地域ほどその後の変化率が大きいことになる。また20～24歳人口性比と男子20～24歳が5年後、25～29歳に移行する時の変化率とは、1960年はプラスの有意な相関を示し、1965年以降、マイナスの有意な相関を示す。また20～24歳人口性比と女子20～24歳が5年後、25

～29 歳に移行する時の変化率とは、1960 年から 1970 年までは、プラスの有意な相関を示し、その後、相関は認められなくなる。1960 年では、人口性比の高い地域ほどその後の変化率が高くなっているが、最近では、人口性比の低い地域ほどその後の変化率が高いことになる。

25～29 歳人口性比と男子 25～29 歳が 5 年後、30～34 歳に移行する時の変化率とは、1970～80 年、1990 年はマイナスの有意な相関を示す。また 25～29 歳人口性比と女子 25～29 歳が 5 年後、30～34 歳に移行する時の変化率とは、1960、65、85 年ではプラスの相関であり、1975 年はマイナスの相関、1970、80、90 年では、相関が認められなくなるなど、結果が年次によって異なる。女子では最近、人口性比の影響がないことになる。

したがって、年齢別人口性比が年齢別人口移動に影響を与えると言えるのは 15～19 歳人口性比だけとなる。しかし、これも郡部では、年齢あるいは年次により、相関が認められたり、認められなかったり異なった結果となり、当てはまらない。

(2) 人口性比と結婚

人口総数の人口性比と婚姻率との関係について、相関係数によってみると（表 V-3）。婚姻率との関係では、結婚適齢期人口の性比との関係を見るのが妥当である。そこで結婚適齢期人口の性比（20～24 歳と 25～29 歳）と婚姻率との相関をみると、市部・郡部ともどの年次もプラスの有意な相関が認められる。すなわち、人口性比の高い地域ほど婚姻率が高いことになる。

結婚の状況をみるには、全人口の婚姻率よりは結婚適齢期の結婚の指標の方がより適当である。そこで、結婚の指標として、男女別有配偶率をとり、それと人口性比との相関をみることにする。20～24 歳、25～29 歳、30～34 歳の人口性比と同じ年齢の男女別有配偶率との相関をみると（表 V-4）、市部では、20～24 歳、25～29 歳、30～34 歳人口性比と男子有配偶率とでは、マイナスの有意な相関を示す。すなわち、市部男子の場合、人口性比が高いほど有配偶率が低いことになる。また郡部では、20～24 歳、25～29 歳人口性比と男子有配偶率とでは、1960、65 年と近年でマイナスの有意な相関を示す。そして 30～34 歳人口性比とは常にマイナスの有意な相関を示す。郡部男子の場合、30～34 歳は常に人口性比が高いほど有配偶率が低いことになり、20 歳代も最近では、人口性比が高いほど有配偶率が低いことになる。若年齢層男子の結婚難とは言い切れないが、関係があることは確かである。

年齢別人口性比と女子有配偶率とでは、市部・郡部とも有意な相関を示す年次もあるが小さく、ほとんど相関は認められない。女子の場合、人口性比と有配偶率とはあまり関係がないと言える。

D. 結論

都道府県別、市部・郡部別人口性比の動向、そして、人口性比と人口移動及び結婚との関係をみた。農村から都市への人口移動を反映して、全国では市部人口の性比の方が高いが、必ずしも、全都道府県で市部人口の性比の方が高いわけで

はなく、大都市を有する府県と東京周辺県のみ、常に市部人口の性比の方が高い。また人口性比の都道府県間格差を年齢別にみた場合、1990年までは、市部・郡部とも20～24歳が最大であり、1995年には25～29歳が最大となる。これは、人口移動、特に20歳代前半の人口移動が都道府県のその人口性比の格差を生じさせるためである。しかし、人口性比の都道府県間格差は、市部・郡部とも15～19歳、20～24歳では年々縮小している。なお、25～29歳では変化がみられない。人口性比と有配偶率との相関では、人口性比が

高いほど男子の有配偶率が低くなるという結果となり、それがとくに市部において顕著である。

¹⁾ 山口喜一、白石紀子「市町村別出生率の動向及びその差異に関する研究」『東京家政学院大学紀要』36（1996）

山口喜一、板東里江子「地域別人口再生産構造の変化に関する研究」『東京家政学院大学紀要』38（1998）

²⁾ 人口性比は、一般に女子人口100に対する男子人口の比で表す。

³⁾ センサス間コーホート変化率には死亡率の影響があるが、死亡率が低い年齢層であり、その都道府県間格差もあまりないと考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

日本人口学会で発表の予定である（年次未定）。

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表 I 都道府県別、市部・郡部別人口性比の動向：1960～95年

表 I - 1 市部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	97.5	97.6	97.6	97.8	97.5	97.2	97.1	96.8
北海道	101.2	98.9	97.0	96.5	96.2	94.6	92.9	92.2
青森	95.0	93.0	92.0	92.4	93.0	91.8	90.1	90.0
岩手	92.8	92.0	91.6	92.4	93.1	92.4	91.5	92.1
宮城	95.4	95.6	96.2	97.2	97.7	97.7	97.3	97.3
秋田	92.6	91.5	90.7	91.3	91.9	91.1	90.5	90.4
山形	91.2	91.7	92.1	92.6	93.6	93.3	93.3	93.8
福島	93.5	93.4	92.8	93.7	94.4	94.4	94.6	95.3
茨城	97.1	97.3	96.7	97.4	98.0	98.4	99.8	100.3
栃木	92.9	93.7	95.0	96.7	97.4	97.8	98.7	99.0
群馬	91.3	93.2	94.7	95.2	96.2	96.8	97.2	97.3
埼玉	97.6	100.6	102.6	102.7	102.5	102.4	103.1	102.7
千葉	97.7	101.2	102.8	103.0	101.9	101.7	102.5	102.4
東京都	106.9	105.1	103.4	102.7	101.6	101.3	101.4	100.2
神奈川県	103.7	106.8	107.0	106.0	104.6	105.2	105.8	104.5
新潟	93.6	93.7	93.4	94.1	95.1	94.8	94.3	94.9
富山	93.3	92.0	91.8	92.8	93.1	92.8	92.6	92.8
石川	91.3	91.7	92.3	93.8	94.0	93.6	93.1	93.2
福井	91.6	91.7	92.0	93.4	93.7	94.6	94.7	94.8
山梨	92.6	91.8	92.5	93.7	94.7	95.7	96.0	96.9
長野	92.1	91.0	91.6	93.0	93.8	94.5	94.8	95.8
岐阜	92.4	92.7	93.1	93.9	94.4	94.2	93.9	93.8
静岡県	96.5	96.8	97.0	97.2	97.0	97.0	97.2	97.3
愛知県	97.5	99.4	100.9	100.8	100.3	100.2	100.8	100.5
三重	92.2	92.2	93.2	94.6	94.6	94.8	95.1	95.2
滋賀	90.3	91.7	93.8	96.0	96.2	96.9	96.6	97.3
京都	95.5	95.9	96.2	96.9	96.4	95.7	95.0	94.4
大阪	101.8	102.1	100.8	99.7	98.5	97.9	97.4	96.6
兵庫	97.6	98.3	98.4	97.4	95.9	95.0	94.3	93.8
奈良	93.3	93.5	93.9	94.6	94.4	94.2	93.2	92.7
和歌山	93.3	95.1	94.9	94.4	93.4	91.8	90.6	90.5
鳥取	90.3	89.8	90.1	91.4	92.4	92.4	92.3	92.5
島根	93.1	91.0	90.1	91.4	92.6	92.7	91.7	91.8
岡山	89.3	89.5	93.2	94.6	94.2	93.8	93.0	93.2
広島	93.8	95.2	96.0	96.8	95.7	95.6	95.1	94.9
山口	95.3	92.9	91.3	92.5	92.3	91.8	90.6	90.7
徳島	91.7	90.8	90.8	91.2	91.8	91.5	90.4	90.2
香川	91.4	90.4	90.7	92.8	93.1	93.4	93.0	93.3
愛媛	91.7	90.5	89.9	90.9	91.1	90.7	89.7	89.7
高知	91.1	89.9	89.1	90.0	90.6	89.8	88.9	88.7
福岡	96.0	93.6	92.8	93.7	93.9	92.9	92.1	91.8
佐賀	90.1	88.4	88.0	88.6	89.7	89.5	89.2	89.9
長崎	94.8	91.5	90.0	90.6	89.9	89.3	88.2	88.1
熊本	90.7	89.2	87.8	89.1	90.3	90.2	89.3	89.8
大分	89.2	87.8	87.1	89.5	90.3	90.3	89.8	90.0
宮崎	93.5	90.7	89.2	89.7	90.8	89.8	88.4	89.0
鹿児島	90.9	89.1	87.5	88.2	89.4	89.6	88.5	88.4
沖縄	—	—	90.8	95.2	95.6	96.0	94.9	95.2

表 I - 2 郡部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	94.7	93.9	93.4	94.0	94.8	94.8	94.3	94.1
北海道	102.9	101.0	97.0	96.5	96.9	96.0	94.1	93.9
青 森	94.5	93.3	92.9	93.6	93.7	93.0	91.4	91.6
岩 手	95.6	93.7	93.2	94.1	94.8	94.3	93.4	93.0
宮 城	94.4	94.4	94.9	95.4	96.2	95.9	95.5	95.5
秋 田	93.8	93.0	92.2	92.7	92.8	92.2	91.5	91.2
山 形	91.9	92.5	91.9	92.9	93.7	93.7	93.1	92.8
福 島	92.1	92.3	92.5	93.8	95.5	95.6	95.4	95.7
茨 城	94.4	95.2	96.8	98.7	100.0	100.2	99.1	99.2
栃 木	93.3	93.6	94.9	96.8	98.2	98.8	99.5	99.1
群 馬	94.6	95.7	95.6	96.8	97.6	97.8	98.5	98.1
埼 玉	97.5	100.6	100.2	99.9	100.4	100.6	100.7	100.4
千 葉	93.6	94.8	97.4	97.2	98.4	97.8	98.1	97.6
東 京	101.7	101.5	104.4	102.6	103.2	104.6	104.7	103.2
神 奈 川	96.1	98.6	100.9	100.3	98.8	99.0	99.9	99.2
新 潟	92.7	93.7	93.4	94.6	94.5	94.3	94.0	94.1
富 山	95.2	92.2	91.4	92.4	93.8	93.5	92.8	93.2
石 川	91.6	91.1	91.6	94.8	94.6	94.2	94.4	94.7
福 井	92.1	92.5	91.9	93.2	93.7	94.2	94.5	93.9
山 梨	95.4	94.1	93.3	94.1	95.2	96.3	96.8	97.4
長 野	93.8	92.8	92.0	93.1	93.9	94.5	94.2	94.3
岐 阜	97.1	94.5	93.5	95.3	95.5	95.6	95.5	95.4
静 岡	96.4	95.2	94.7	95.6	96.4	96.8	97.1	96.8
愛 知	93.0	95.7	96.7	97.7	99.1	99.3	99.6	99.4
三 重	94.8	93.0	91.8	92.4	93.0	92.8	92.4	92.7
滋 賀	92.7	92.6	93.2	95.1	95.9	96.9	96.9	97.3
京 都	94.9	94.5	95.3	94.6	94.3	94.6	94.5	94.3
大 阪	89.6	94.3	97.5	97.3	96.3	95.9	95.5	94.7
兵 庫	92.7	91.5	91.2	92.7	93.1	93.4	92.8	92.7
和 歌 山	99.2	94.9	94.2	94.4	94.2	94.3	93.3	93.0
鳥 取	94.3	92.2	90.9	92.0	92.2	91.7	90.6	90.6
島 根	93.1	91.4	90.0	90.8	92.1	91.9	91.3	90.9
岡 山	96.3	93.0	91.1	91.3	92.7	93.4	91.6	91.3
広 島	94.0	91.8	90.8	91.8	92.6	92.8	92.0	91.4
山 口	94.5	93.4	94.1	94.2	94.4	93.5	92.7	92.4
徳 島	94.2	91.0	89.2	89.0	89.8	88.9	87.8	87.4
香 川	93.9	92.3	91.1	91.9	92.7	92.2	91.4	91.0
愛 媛	91.5	89.9	89.8	91.7	92.4	92.5	91.8	91.5
高 知	93.6	91.1	89.7	91.0	91.4	91.3	90.0	89.7
福 岡	94.7	92.0	90.5	90.7	92.3	91.1	90.0	89.5
佐 賀	93.9	91.9	90.9	91.6	92.6	92.0	91.1	90.7
長 崎	91.5	89.8	89.0	89.6	91.1	90.9	89.9	89.9
熊 本	96.5	93.8	92.4	92.5	93.2	92.7	90.7	90.1
大 分	92.2	90.7	89.3	89.9	90.9	90.8	89.8	89.8
宮 崎	93.1	90.8	89.3	89.0	90.2	90.1	89.1	88.6
鹿 児 島	96.3	93.4	91.4	91.9	92.9	92.0	91.4	91.3
沖 縄	91.0	88.9	86.2	86.6	88.1	88.2	87.7	88.0
	—	—	92.4	97.8	98.8	99.6	98.3	98.5

表 I - 3 20~34歳市部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	101.1	101.8	101.2	101.6	101.7	102.7	103.3	103.8
北海道	103.2	97.0	91.8	92.3	94.8	94.1	92.7	94.5
青森	92.3	88.5	88.3	91.0	93.9	92.7	91.6	94.9
岩手	87.8	84.5	85.5	89.6	95.4	95.9	95.9	99.4
宮城	94.4	94.7	97.5	99.5	99.8	100.9	100.5	102.6
秋田	87.3	84.9	85.4	90.4	93.5	92.1	92.6	96.4
山形	86.6	87.8	91.9	96.1	100.0	98.2	98.5	101.0
福島	90.8	90.1	91.5	95.5	97.2	96.9	97.8	101.2
茨城	101.7	103.3	99.8	98.6	98.2	101.7	106.6	108.7
栃木	91.5	93.2	96.1	99.2	99.8	100.8	104.8	107.3
群馬	87.5	92.1	95.5	96.7	98.3	100.5	102.7	104.4
埼玉	100.6	105.6	105.6	102.7	102.8	106.6	110.2	109.1
千葉	104.3	108.6	106.0	104.6	103.3	106.2	110.8	111.8
東京都	117.7	116.8	114.5	115.3	116.2	117.5	115.4	111.6
神奈川県	111.4	115.9	115.0	113.4	113.2	119.4	121.8	117.6
新潟	93.0	93.0	92.8	95.3	98.4	98.3	98.7	101.8
富山	91.1	89.2	89.4	92.3	93.2	93.5	95.6	100.5
石川	89.7	91.1	93.0	97.9	98.1	97.6	97.3	99.0
福井	90.3	88.9	90.5	93.8	95.8	97.5	98.6	101.8
山梨	89.7	87.4	89.6	92.6	97.0	100.9	102.8	108.2
長野	88.2	86.2	88.9	92.7	94.3	96.9	98.8	103.5
岐阜	90.3	91.0	90.6	91.4	91.6	89.5	90.8	93.5
静岡県	98.9	98.8	99.1	98.8	98.2	99.3	101.3	103.2
愛知県	102.4	107.1	108.2	105.7	104.1	105.0	107.7	107.7
三重	95.4	94.9	94.5	96.8	95.9	96.3	98.2	99.9
滋賀	94.2	94.8	97.7	100.8	97.5	98.3	97.6	101.8
京都	103.8	105.4	105.5	105.6	104.8	104.9	103.7	103.4
大阪	108.6	109.6	106.0	102.9	101.2	102.0	101.5	101.5
兵庫	102.7	103.6	102.0	99.9	96.7	95.6	94.7	95.5
奈良	98.5	98.1	94.0	92.5	91.7	91.9	91.0	92.1
和歌山	95.2	99.6	97.3	94.7	92.8	90.0	87.8	89.9
鳥取	86.4	85.1	87.7	92.8	95.6	96.0	96.4	100.1
島根	89.3	83.9	84.1	91.4	97.1	96.0	91.9	94.7
岡山	87.9	86.7	92.4	96.0	95.1	94.7	93.4	95.8
広島	91.7	95.1	97.8	99.9	98.0	97.4	95.9	98.0
山口	93.6	87.8	86.0	91.6	93.2	92.9	91.2	95.4
徳島	89.4	87.3	88.7	90.9	93.5	90.7	88.7	89.0
香川	88.6	85.1	87.3	93.7	94.1	93.4	93.7	97.0
愛媛	85.6	84.4	84.8	88.7	89.5	88.3	87.6	91.0
高知	86.6	85.9	87.0	91.0	92.6	91.0	88.2	91.5
福岡	95.1	90.5	90.6	94.2	97.5	97.1	95.4	96.7
佐賀	84.4	78.2	80.5	85.5	91.3	90.5	88.3	92.2
長崎	92.0	83.5	83.2	88.7	90.1	89.1	86.5	88.9
熊本	85.7	81.3	80.1	86.0	91.9	91.9	89.0	93.0
大分	81.5	77.8	78.1	85.5	88.3	88.3	87.3	91.5
宮崎	88.0	82.0	81.6	86.2	90.1	87.8	83.8	89.0
鹿児島	82.8	79.9	80.6	86.2	91.1	89.2	85.2	86.5
沖縄	—	—	89.4	100.4	101.3	100.0	94.9	96.2

表 I - 4 20~34歳郡部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	94.9	92.2	92.5	97.6	100.7	100.0	98.3	99.6
北海道	107.2	98.0	87.2	89.1	95.7	97.6	95.1	98.2
青森	91.1	87.3	88.1	96.2	100.9	98.9	96.5	102.8
岩手	93.2	86.9	90.2	101.2	106.9	105.0	101.9	104.1
宮城	90.9	91.6	96.5	105.1	107.8	105.3	103.7	104.5
秋田	89.2	86.6	89.3	100.0	103.6	100.8	99.3	100.8
山形	86.6	88.7	95.7	107.1	111.1	105.8	101.0	101.8
福島	86.9	87.0	93.7	103.3	108.9	105.8	102.2	103.4
茨城	96.9	99.1	105.0	108.1	108.5	107.1	103.4	104.2
栃木	91.1	93.0	98.5	106.1	107.9	105.7	105.1	105.0
群馬	94.2	96.3	98.2	101.3	102.8	102.6	104.0	103.8
埼玉	101.6	106.1	102.1	101.1	99.7	101.5	103.4	104.7
千葉	96.8	98.9	106.1	107.0	103.9	103.6	101.5	101.6
東京	102.8	102.0	106.3	110.8	112.4	118.0	117.8	115.1
神奈川	101.6	105.1	105.0	102.0	100.3	104.5	108.1	110.0
新潟	92.1	93.5	97.3	104.5	107.7	106.1	103.8	103.4
富山	96.9	89.7	90.2	96.3	98.8	95.6	94.7	97.7
石川	90.4	89.1	91.9	101.3	101.3	99.1	100.6	105.2
福井	93.5	90.6	91.3	100.0	103.1	102.0	99.7	99.7
山梨	97.7	93.1	93.2	97.2	100.3	103.7	102.3	104.7
長野	91.4	89.0	89.8	95.7	99.8	100.8	99.7	101.6
岐阜	100.2	90.5	89.3	94.6	95.6	94.8	96.0	98.5
静岡	101.4	96.5	96.1	98.8	100.5	100.2	101.8	102.0
愛知	96.6	100.7	98.4	97.7	98.3	100.5	103.9	104.7
三重	99.6	93.3	89.8	93.7	94.3	93.5	91.6	94.7
滋賀	97.9	95.0	96.4	101.4	101.0	100.2	99.7	102.6
京都	100.0	96.3	95.5	95.2	98.2	98.4	99.8	100.1
大阪	91.1	98.5	100.0	98.0	91.2	91.2	94.8	97.1
兵庫	92.7	87.4	88.2	95.0	96.9	95.9	92.9	94.7
奈良	111.5	99.2	95.3	94.0	92.6	93.2	90.7	92.9
和歌山	97.9	89.9	86.6	91.5	94.1	92.3	95.3	93.3
鳥取	91.4	87.5	87.8	97.8	103.1	100.5	95.7	97.3
島根	95.5	89.1	86.8	97.6	107.5	107.2	100.1	99.9
岡山	93.3	88.3	86.8	93.0	97.1	97.2	94.7	94.9
広島	93.6	90.8	94.1	97.2	98.6	98.0	96.7	98.6
山口	92.3	83.9	81.3	88.0	92.7	92.0	85.5	88.0
徳島	90.7	88.7	87.3	95.4	99.3	95.6	91.8	91.4
香川	89.0	84.8	86.0	93.6	96.4	94.1	92.0	94.0
愛媛	88.6	83.2	81.4	92.3	97.3	95.7	91.5	92.7
高知	94.0	87.4	87.3	94.0	103.1	99.8	97.2	97.1
福岡	92.7	87.2	86.4	91.3	96.0	94.8	92.1	94.9
佐賀	86.9	81.0	82.0	88.0	95.6	93.4	89.3	90.1
長崎	98.1	89.1	87.3	94.0	100.1	98.9	92.3	91.2
熊本	87.9	82.5	82.7	92.1	97.9	96.0	91.8	92.6
大分	88.4	80.9	78.9	86.2	97.6	98.7	94.6	94.2
宮崎	95.5	88.1	86.4	94.5	100.6	96.8	94.1	96.4
鹿児島	86.8	81.7	78.5	88.9	97.9	96.5	89.5	89.2
沖縄	—	—	102.4	115.8	115.3	113.4	105.4	104.1

表 I - 5 15~19歳市部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	104.0	103.5	102.7	104.0	104.4	105.2	105.0	105.0
北海道	103.0	101.3	103.3	105.4	106.1	104.4	105.0	104.6
青森	96.2	97.7	95.9	96.5	101.2	101.5	99.8	100.8
岩手	92.0	97.9	99.0	103.3	105.9	104.1	105.2	105.3
宮城	99.1	104.5	103.3	106.9	107.8	110.6	108.8	108.8
秋田	92.5	94.8	97.0	98.3	101.7	102.2	103.7	108.6
山形	90.3	100.3	100.5	101.3	103.7	103.9	102.9	106.0
福島	91.8	97.0	95.6	97.1	101.6	100.7	100.8	103.8
茨城	103.0	100.4	97.5	98.8	101.8	103.0	105.4	106.1
栃木	88.0	93.7	96.7	100.1	101.3	102.1	104.6	105.9
群馬	88.0	95.5	97.7	100.1	102.3	103.6	102.7	105.0
埼玉	97.8	105.0	108.6	106.8	107.0	106.8	106.2	105.6
千葉	100.5	107.9	111.1	111.2	108.5	107.2	108.1	108.6
東京都	127.6	115.0	110.7	110.1	108.9	108.7	106.7	105.2
神奈川県	113.8	117.4	122.0	117.2	111.7	111.5	109.9	108.5
新潟	96.4	99.1	97.5	101.3	104.2	106.0	104.6	106.9
富山	96.4	96.0	93.6	97.4	102.0	104.2	103.8	106.7
石川	87.5	93.1	94.5	98.5	101.6	102.2	101.2	105.7
福井	83.6	90.4	92.2	101.2	102.6	104.4	105.7	110.4
山梨	89.9	91.3	89.5	94.8	99.6	105.2	104.1	101.9
長野	97.2	95.8	94.8	99.3	101.4	103.5	105.0	105.6
岐阜	80.6	83.1	83.4	87.4	94.0	97.8	98.8	100.8
静岡県	98.2	99.2	96.5	98.3	101.2	103.0	102.1	104.0
愛知県	94.5	97.0	98.8	102.6	103.4	106.4	106.4	105.6
三重	86.2	86.0	90.4	98.3	101.3	104.0	104.6	104.8
滋賀	75.9	83.3	89.6	91.9	97.6	100.5	99.8	103.5
京都	102.0	103.5	104.3	107.9	106.7	106.1	105.8	104.3
大阪	119.2	113.5	106.5	105.0	103.8	105.4	105.5	104.1
兵庫	98.5	100.1	101.5	99.7	97.8	99.9	99.9	99.1
奈良	97.7	95.3	96.4	97.0	96.9	100.1	101.0	100.0
和歌山	97.1	99.7	103.7	103.5	101.4	102.9	103.2	105.3
鳥取	95.0	96.3	101.0	102.7	107.1	108.3	109.7	110.3
島根	102.2	104.5	104.0	105.2	106.2	109.3	107.8	111.5
岡山	74.1	79.4	88.0	93.5	96.4	98.6	99.2	100.2
広島	95.9	102.9	107.1	104.0	102.9	104.4	104.1	105.0
山口	100.3	120.0	98.6	100.3	103.0	102.2	103.3	106.0
徳島	91.4	93.7	92.5	92.8	92.4	97.2	93.5	98.6
香川	91.2	93.2	96.2	97.1	98.0	102.9	103.9	106.0
愛媛	90.9	94.1	91.6	97.1	99.9	102.2	100.9	103.0
高知	100.0	98.8	100.2	103.1	104.2	102.6	103.6	104.7
福岡	102.0	101.0	101.9	107.2	106.7	105.5	107.3	106.2
佐賀	87.9	93.4	93.5	93.8	97.2	97.2	99.4	103.0
長崎	101.5	100.9	99.0	101.5	99.9	99.0	98.7	96.3
熊本	95.8	98.9	97.3	103.3	106.6	106.0	107.1	110.2
大分	90.4	93.3	90.9	97.1	99.1	102.4	105.7	107.1
宮崎	106.7	101.7	99.1	99.6	102.7	100.4	100.2	104.1
鹿児島	115.1	111.8	103.5	102.4	99.9	98.7	99.6	99.4
沖縄	—	—	97.5	102.3	102.1	101.5	100.9	103.2

表 I - 6 15~19歳郡部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	94.5	98.9	99.3	101.2	104.1	104.4	104.3	105.5
北海道	96.7	96.5	95.5	98.7	100.2	100.1	101.0	104.5
青 森	90.2	97.0	101.6	103.4	105.4	103.9	105.0	109.9
岩 手	93.0	102.9	104.1	104.0	108.9	106.5	103.9	104.0
宮 城	95.4	107.2	106.3	106.8	109.9	106.7	105.4	108.5
秋 田	90.9	102.4	101.9	100.0	105.6	105.3	103.3	108.2
山 形	91.7	104.5	102.2	105.8	107.4	105.2	104.9	105.1
福 島	88.0	101.0	99.7	102.6	107.6	104.5	104.6	104.4
茨 城	93.4	102.1	102.9	106.0	106.1	105.7	103.0	103.0
栃 木	89.2	99.1	99.1	103.3	103.0	105.5	107.1	104.5
群 馬	90.3	97.0	98.6	102.8	103.6	105.7	105.7	105.3
埼 玉	99.8	108.0	105.2	105.8	105.3	107.9	107.0	108.7
千 葉	93.0	101.2	103.7	103.8	106.5	105.7	107.8	106.3
東 京	107.5	108.9	125.3	114.3	110.2	110.5	109.6	105.0
神 奈 川	92.8	96.6	104.1	106.5	106.1	105.2	108.5	105.0
新 潟	97.9	107.8	107.4	108.8	109.3	105.1	103.8	105.0
富 山	91.7	91.7	90.4	92.9	95.6	100.2	100.6	104.4
石 川	84.0	88.7	98.0	108.4	107.6	105.6	110.4	111.9
福 井	90.2	97.0	101.0	100.9	104.6	103.0	104.3	105.6
山 梨	95.0	97.4	95.8	101.2	107.8	107.6	111.6	110.9
長 野	104.1	100.5	98.6	99.4	103.0	105.1	102.9	104.6
岐 阜	90.7	91.9	89.4	97.5	99.3	104.2	103.0	104.0
静 岡	91.1	94.8	94.3	98.2	103.6	103.4	104.2	105.9
愛 知	76.2	85.2	82.8	88.9	98.6	103.5	103.5	104.1
三 重	97.1	94.1	91.5	91.5	101.9	102.3	104.5	106.7
滋 賀	90.7	94.7	97.2	99.1	102.7	105.6	106.3	103.9
京 都	97.7	100.0	101.7	103.8	103.5	103.8	104.3	108.8
大 阪	69.9	81.1	96.6	95.6	99.0	104.3	103.8	108.6
兵 庫	88.6	92.8	92.7	97.5	100.9	106.1	102.1	103.4
奈 良	96.7	94.9	92.2	91.9	95.4	100.3	102.3	103.4
和 歌 山	89.1	93.1	90.8	97.8	102.2	105.9	106.6	107.0
鳥 取	102.8	102.1	101.2	101.6	105.4	106.3	103.9	106.4
島 根	123.0	112.5	106.3	104.5	107.5	108.4	105.1	109.3
岡 山	96.0	93.9	92.7	96.6	102.9	104.3	103.6	108.6
広 島	96.1	99.4	101.8	103.7	107.9	104.5	104.5	108.0
山 口	101.2	98.4	101.5	100.2	100.0	101.0	102.6	103.5
徳 島	94.2	96.1	93.6	94.7	99.0	99.4	98.6	102.0
香 川	89.8	92.4	93.1	97.9	100.3	102.3	102.0	103.9
愛 媛	101.6	98.8	101.2	101.9	102.8	106.9	103.2	106.1
高 知	103.4	102.2	101.3	102.2	107.8	105.1	105.7	107.9
福 岡	95.2	96.8	99.0	101.7	103.4	104.2	105.1	104.7
佐 賀	89.6	97.8	97.6	97.4	99.1	99.5	99.8	103.5
長 崎	105.2	111.9	111.0	109.6	112.6	107.1	105.7	106.1
熊 本	96.1	103.8	100.8	101.8	104.9	102.8	103.9	105.3
大 分	95.8	99.3	98.7	102.8	109.3	107.6	104.6	106.8
宮 崎	116.8	115.9	112.3	106.7	105.0	102.1	105.3	106.9
鹿 児 島	118.5	113.4	106.7	102.2	104.6	102.7	100.4	100.1
沖 縄			100.6	105.7	106.7	107.5	104.3	104.5

表 I - 7 20~24歳市部人口の性比

	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995
全 国	103.5	102.9	102.5	103.5	103.8	104.9	104.7	104.7
北海道	103.0	93.0	89.7	91.4	97.5	95.1	94.9	100.1
青森	90.1	82.8	84.6	87.5	90.9	90.6	92.9	97.5
岩手	82.3	77.9	81.3	84.8	93.7	94.1	94.1	101.5
宮城	94.5	96.4	99.3	100.9	103.4	107.0	105.7	106.9
秋田	80.3	76.4	78.4	84.2	87.7	86.3	94.4	101.0
山形	79.8	80.3	87.7	88.8	93.6	94.2	98.5	103.4
福島	85.5	84.0	88.2	89.6	92.2	93.8	96.5	102.5
茨城	103.7	101.0	92.6	93.8	94.3	99.6	105.6	107.0
栃木	82.2	85.0	90.5	93.4	94.4	98.6	103.1	108.8
群馬	78.1	86.6	90.4	89.1	95.3	98.5	101.5	103.1
埼玉	99.6	106.1	110.5	109.4	110.6	111.5	111.3	107.9
千葉	106.7	113.5	114.6	117.1	114.7	112.9	112.9	111.8
東京	133.4	125.9	122.7	124.8	124.2	123.0	117.5	111.0
神奈川	122.3	126.3	127.0	130.1	127.8	130.4	126.7	116.5
新潟	86.3	86.3	86.4	86.9	94.5	95.4	97.4	102.5
富山	86.6	81.5	81.5	82.5	84.5	89.0	92.5	101.0
石川	85.3	87.5	90.0	96.3	96.1	97.9	99.7	102.5
福井	78.8	79.6	83.9	85.6	90.8	94.6	99.2	108.4
山梨	81.5	79.5	83.9	85.3	93.9	102.9	105.7	112.5
長野	81.8	77.1	80.7	82.1	86.7	93.3	96.0	102.9
岐阜	79.5	81.3	83.0	80.7	81.5	82.1	85.4	89.7
静岡	95.8	93.7	94.6	94.2	91.9	94.2	96.9	99.7
愛知	100.8	107.5	108.9	106.6	105.9	106.3	107.9	106.3
三重	86.9	88.5	89.6	91.3	91.1	95.9	96.9	99.0
滋賀	84.1	87.9	94.4	100.8	95.3	97.7	97.0	103.7
京都	111.5	111.2	112.9	118.9	118.9	115.9	111.8	109.9
大阪	115.6	113.5	108.7	106.1	104.1	103.8	102.2	102.6
兵庫	104.9	104.2	101.8	98.8	91.8	92.7	93.0	93.7
奈良	96.3	90.7	89.4	89.7	88.0	89.7	89.1	91.7
和歌山	91.0	97.1	93.2	89.3	87.6	82.8	82.5	91.5
鳥取	77.5	73.3	83.2	86.0	91.7	96.7	102.2	107.8
島根	82.9	73.8	78.3	83.4	88.7	87.8	89.3	94.3
岡山	76.3	74.5	84.6	90.4	86.1	88.4	89.1	95.4
広島	86.5	89.9	95.9	97.4	91.9	94.5	93.4	98.9
山口	90.0	82.1	79.7	87.5	87.0	89.0	90.3	102.3
徳島	81.4	75.7	81.1	80.4	82.2	80.0	82.7	84.9
香川	80.5	74.4	78.5	83.8	81.6	87.2	89.6	96.1
愛媛	78.9	76.8	77.5	79.1	80.0	82.5	84.0	91.5
高松	80.7	79.4	80.9	83.3	84.9	85.0	81.4	92.5
福岡	93.7	90.8	91.7	98.0	104.0	101.5	101.5	104.6
福岡	75.2	66.6	74.4	78.6	83.6	85.5	85.3	96.0
佐賀	89.0	75.9	79.7	85.5	83.6	82.3	82.2	89.5
長崎	80.6	73.6	75.7	81.8	89.4	90.4	90.9	102.0
熊本	70.0	64.4	66.8	74.7	78.1	82.2	87.6	96.7
大分	83.8	74.1	74.3	75.5	78.6	77.7	74.2	90.9
宮崎	81.8	74.2	75.1	77.2	81.6	81.9	81.6	88.6
鹿兒島			85.0	99.7	97.5	95.1	91.5	97.4
沖繩								